

## 呂 仙 祖



呂仙祖（呂洞賓 後 純陽）は道教の八仙の中で最も民衆から愛されてきた仙人です。20歳で科挙を受験するよう推薦された秀才であり、後に県知事に任命された唐の時代の人です。ある日廬山でやはり八仙の一人である漢鍾離に出会い終南山において修行し、仙術を授かり仙道を究めんと修行を重ねました。一方、病気で苦しむ人々に薬を与えたり貧しい人々にお金を恵んだり、数多くの功德を積み「南宮孚佑帝君」の名のもとに民衆から絶大な人気を誇る仙人となりました。

## 一陽帝君

一陽帝君とは、天道の前人呉信学です。1946年、天然古仏の命を受けて、伝道の為に中国から台湾に行き、1953年日本へ渡り、神戸で日本天道総壇を設立されました。1975年昇天後、天界より「慈光真君」の名を与えられ、その後無極瑶池老母大天尊がその功を賞して、一陽帝君の位を贈り、1982年無極瑶池老母大天尊の懿令により、日本大道院純陽宮玄門法事主席として「南宮孚佑帝君呂仙祖」を補佐する事になりました。

